

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 5 月 19 日現在

機関番号：34419

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2012～2014

課題番号：24652052

研究課題名(和文)宝珠院所蔵資料の基礎的研究

研究課題名(英文)Basic research for materials possessed by Hoshuin

研究代表者

藤巻 和宏 (FUJIMAKI, Kazuhiro)

近畿大学・文芸学部・准教授

研究者番号：00468878

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,800,000円

研究成果の概要(和文)：大阪府大阪市北区に所在する宝珠院(菅原山天満寺宝珠院)という真言宗寺院の資料(典籍・文書・絵画)調査が主たる研究課題であった。宝珠院は、かつて大阪市教育委員会が文化財調査をおこなったが、主として仏像を対象とするものであり(『大阪市文化財調査報告』23、2000)、文献と絵画についてはほぼ手付かずの状態である。本研究課題では、未整理状態の文献・絵画資料を対象とする調査を進め、9割弱の書誌データを記録し、簡易目録を作成した。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this study is to research materials (documents and pictures) possessed by Hoshuin, a Shingon temple located in Kita Ward, Osaka City, Osaka Prefecture in Japan. Board of Education of Osaka City had already conducted a research of cultural properties of Hoshuin before, however it targeted primarily at statues of Buddha, and specific researches have almost never been conducted on documents and pictures. For the last three years, I have researched documents and pictures, by recording related data for nearly 90% of all, and prepared a summary list based on it.

研究分野：日本文学・寺院資料

キーワード：日本文学 書誌学・文献学 寺院資料 文化財保存 大阪市の文化財 真言宗 如意宝珠信仰 天神信仰

1. 研究開始当初の背景

宝珠院は、現在は真言宗御室派に所属する寺院であり、また、かつて大坂天満宮の神宮寺であったとも推定されている。近世に作成された縁起によると、空海(774-835)により建立され、菅原道真(845-903)とも関係があったということだが、草創期の詳細を伝える資料はない。中世以降は、鎌倉・室町・江戸時代の仏像も残るものの、寺院の実態的な側面については、資料から断片的に、応永三年(1396)に摂津国豊嶋郡と大和国添下郡を寺領として寄進されたことや、山科言経(1543-1611)・古田織部(1544-1615)・藤原惺窩(1561-1619)ら文化人との交流などが指摘されるにとどまっていた。

さて、日本史学・日本語学・日本文学研究による各地の寺院調査を通じ、現在、寺院資料の悉皆調査の重要性が注目されている。個別寺院の膨大な所蔵資料を整理・紹介すること自体、大きな成果といえるが、一方で、そうした調査・研究が前近代の知識体系を明らかにする有効な手段として認識されてもいる。そうした動向の中で、藤巻はこれまで随心院(真言宗善通寺派・京都市山科区)その他の寺院・文庫調査を進め、成果をあげてきた。その経験と成果を活かしつつ、新たな対象として宝珠院を設定し、調査を進めることとしたのである。

2. 研究の目的

本研究は、まずは未整理の文献・絵画に仮の整理番号を付けながら簡易目録を作成し、所蔵資料の全体像を見渡せる状態にすることを旨とする。その作業を経た後、改めて詳細な書誌データを記録し、検討しながら、整理番号を確定する。また、資料群の通時的な動態を把握しやすくするために、書写者や伝来に関する各種情報を盛り込んだデータベースを構築する。特に重要と考えられる資料は写真や翻刻として、論文・目録と併せて冊子体の報告書に掲載して紹介する。

未整理で死蔵状態にある宝珠院所蔵資料を、将来的な文化財保存をも見通しつつ調査・整理・分析・紹介することにより、研究資源の整備と提供をおこなうことが可能となる。それに加え、宝珠院を起点として浮かび上がる中世から近代に至る諸寺社・人物のネットワークが明らかとなり、また、如意宝珠信仰・弘法大師信仰・天神信仰といった、個別の寺院や地域を越えた思想史的研究に資する成果も期待できる。

現在、各地でおこなわれている寺院の悉皆調査のうち、日本文学研究者が関わるものとして、如来寺(福島県)・真福寺(愛知県)・勸修寺(京都府)・金剛寺(大阪府)・善通寺(香川県)...等の調査があり、所蔵される文献資料全体を対象とすることにより、個別の資料を対象とする調査とは異なる成果が期待できる。これは、単に調査対象となる資料の点数が多いということだけでなく、資料群

を一つの集合体として捉え、かつ、書写・校合・貸借・伝授...といった行為から資料群の動態(蔵書の形成と変容)を通時的に把握することにより、関係する人物・諸寺院の知識体系をも闡明することが可能となるからである。これはきわめて重要な視角であり、こうしたスタンスによる調査対象寺院の拡大は、日本文学のみならず、多分野の研究に大きな成果をもたらすことになる。

本研究課題である宝珠院調査はこうした研究動向の一翼を担うことになり、また、大阪市内の寺院としては稀有な例となる空襲を免れた資料の多さ(50冊前後の典籍を収めた木箱120箱以上、絵画100点以上、文書は分散しており点数未詳)を誇る寺院を調査することは、それ自体がチャレンジ性を有していると言える。それに加えて宝珠院の特色を述べるならば、真言宗寺院に期待できる一般的な事項(密教関係資料の存在・密教諸流派の伝授・弘法大師信仰...等)のほか、(1)寺院名にもなっている宝珠=如意宝珠信仰、(2)大坂天満宮との関係・天神信仰、(3)山科言経・古田織部・藤原惺窩ら著名な文化人との交流...等、いくつかの要素を挙げることができる。本研究は、こうした点にも注意を払いながら進めてゆくことで、悉皆調査との相乗効果をもたらすものと思われる。

3. 研究の方法

本研究の基礎的作業は、資料の整理と書誌記録である。研究協力者とともに毎月1回1~2日程度のペースで調査をおこない、整理番号を付しながら書誌情報を記録する。通常期間は関西在住のメンバーが中心となるが、8月と3月は他地域のメンバーも含め3日間の調査をおこなう。

研究協力者として、藤巻が運営する寺社資料調査研究会メンバーに参加を依頼する。文献資料(典籍・文書)は、藤巻および柏原康人(大手前大学非常勤職員・日本文学)・坂口太郎(日本学術振興会特別研究員・日本史)・橋本正俊(摂南大学准教授・日本文学)・花川真子(京都大学大学院生・日本史)・浜畑圭吾(高野山大学助教・日本文学)・吉田唯(高野山大学密教文化研究所受託研究員・日本文学)の計7人で通常期間の調査を進め、8月・3月は、植田麦(明治大学専任講師・日本文学)・太田有希子(早稲田大学大学院生・日本文学)・大塚紀弘(法政大学専任講師・日本史)・大東敬明(國學院大學助教・神道学)・西尾知己(日本学術振興会特別研究員・日本史)・貫井裕恵(早稲田大学大学院生・日本史)・日沖敦子(神戸学院大学専任講師・日本文学)・牧野和夫(実践女子大学教授・日本文学)・森誠子(九州産業大学専任講師・日本文学)らも加わる。データ整理は近畿大学学部生・大学院生に依頼し、簡易目録の作成を進める。

絵画資料は古川攝一(大和文華館学芸員・日本美術史)を中心として進める。仏像につ

いての情報は、基本的には大阪市の調査報告に依拠するが、分析に際しては清水紀枝（日本学術振興会特別研究員・日本美術史）に協力を求める。

調査は、藤巻がこれまでにおこなってきた調査の方法を踏襲する一方で、宝珠院の状況を勘案しつつ、以下のような方法で進めてゆこうと考えている。

(A) 科研費採択以前の予備調査で、高照・定照・智照という三人の僧の存在が浮上した。18～19世紀の住職であるが、彼らは多くの寺院で典籍を丁寧に書写・校合しており、書写奥書の情報量も大きい。宝珠院の蔵書形成を考察するに際し、暫定的にこの三人を基点として進めてゆく。

(B) 文献が収納される木箱は、これ自体も豊富な情報（文字・貼紙・形態）を有している。破損しているものは修復しつつ、可能な限り保存に努め、同時に、情報を詳細に記録する。

(C) 日本文学研究者による寺院調査は、ややもすると文献資料に偏重しがちであるが、本研究では文献のみならず絵画も調査対象とし、また、大阪市による仏像調査の成果も参照しつつ、寺院に伝来し集積された文化遺産を総体的に把握することを目指す。

(D) 藤巻がこれまでに調査してきた随心院・成田山仏教図書館・神奈川県立金沢文庫・高野山大学図書館...等での密教関係資料の調査成果を、他寺院や密教諸流派との関わりを検討する際の情報として利用する。

4. 研究成果

3年間で30回、のべ50日の調査をおこない、絵画資料はほぼ全点、文献資料は9割弱の書誌記録を取り終えた。当初の計画では、1年目にすべての書誌記録を取って簡易目録を作成し、資料の全体像を見渡せる状態にしてから詳細な研究へと進んでゆく予定であったが、実際には3年かけても全点の記録を取るに至らなかった。残りの書誌記録、およびそれに基づく詳細な研究は、次の採択課題にて着手したい。

この作業を通じて、大阪・京都・高野山・中国四国地方の複数の寺院との交流が明らかとなり、また、他寺院で多くの典籍を書写・校合していた人物として、当初から注目していた高照・定照・智照の三人に加え、等空・恵月という僧が新たに浮上してきた。

また、仮番号を付しながら調査している木箱とは別に保管されている資料のうち、縁起数点については翻刻を付して紹介した。

併せて、高野山大学図書館に寄託されている典籍類の調査もおこなった。宝珠院所蔵資料のなかには高野山との関わりを示す奥書が散見されるものの、高野山側の資料中に宝珠院との関係を示す情報は、まだ見いだすに至らなかった。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計5件)

藤巻和宏、「菅原山天満寺宝珠院の縁起について」、『文学・芸術・文化』、査読有、26巻1号、2014年、1-11ページ

<http://kurepo.clib.kindai.ac.jp/modules/xoonips/detail.php?id=AN1018193X-20140930-0001>

藤巻和宏・尾山慎、「対談 寺院宝蔵調査と資料研究の意義」、『宝珠院便り』、査読無、5号、2014年、1-3ページ

藤巻和宏、「宝珠について」、『宝珠院便り』、査読無、4号、2013年、1-2ページ

藤巻和宏、「菅原山天満寺宝珠院調査報告」、『渾沌』、査読有、10号、2013年、63-72ページ

<http://kurepo.clib.kindai.ac.jp/modules/xoonips/detail.php?id=AA1190346X-20130328-0063>

藤巻和宏、「宝珠院調査の概要」、『宝珠院便り』、査読無、1号、2012年、1ページ

〔学会発表〕(計5件)

藤巻和宏、「古代寺社縁起の研究展望」、寺社縁起研究会・関東支部・第115回例会、2015年2月16日、近畿大学東京センター（東京都）

藤巻和宏、「寺院資料調査の実態と展望 随心院・宝珠院・勸修寺文庫を例に」、『近畿の文化資源とその活用』第2回ワークショップ、2014年3月18日、近畿大学（大阪府）

藤巻和宏、「菅原山天満寺宝珠院の縁起関係資料」、伝承文学研究会・第413回東京例会、2014年3月15日、学習院女子大学（東京都）

藤巻和宏、「寺院・文庫の典籍調査と縁起研究」、成城大学民俗学研究所共同研究「寺社縁起の研究」研究例会、2014年3月14日、成城大学（東京都）

藤巻和宏、「宝珠院の略縁起数種について」、寺社縁起研究会・関東支部・第111回例会、2013年8月8日、近畿大学東京事務所（東京都）

〔図書〕(計3件)

小林真由美・北條勝貴・増尾伸一郎編、法蔵館、『寺院縁起の古層 注釈と研究』、2015年、全326ページ、藤巻和宏「総論 寺院縁起の古層」(3-19ページ)を執筆

井田太郎・藤巻和宏、勉誠出版、『近代学問の起源と編成』、2014年、全456ページ

大橋直義・藤巻和宏・高橋悠介編、勉誠出版、『中世寺社の空間・テキスト・技芸 「寺社圏」のパースペクティブ』、2014年、全272ページ

〔産業財産権〕
出願状況（計0件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況（計0件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

藤巻 和宏 (FUJIMAKI Kazuhiro)
近畿大学・文芸学部・准教授
研究者番号：00468878

(2) 研究分担者

()

研究者番号：

(3) 連携研究者

()

研究者番号：